
令和 2 年度

東京家政大学 女性未来研究所

活動報告書

Tokyo Kasei University
Institute for the Advancement of Women
Annual Activity Report

令和2年度

東京家政大学 女性未来研究所

活動報告書

Tokyo Kasei University

Institute for the Advancement of Women

Annual Activity Report

はじめに

渡辺学園東京家政大学は、建学の精神「自主・自律」とその精神を日々実践するため、「愛情・勤勉・聡明」を生活信条として歩み続け、2021年創立140周年を迎えました。女子大学としてのその歴史を礎に女性未来研究所は2014年に樋口恵子名誉教授(現名誉所長)を初代所長として開設し、本年8年目となります。

現在2020年から2022年を第Ⅲ期として「女性の未来と希望の支援」をテーマのもと、未来を創造すべく研究・活動をすすめています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症の流行によって、世界中が大きく変化せざるを得ず、2021年の現在にあっても収束に至っていません。人と人とのつながりが大きく変化し、当たり前のように対面であった日常がオンライン等に変わり、社会生活も教育・研究もこれまでにはなかった状況に直面し、新たな課題が生じています。本研究所における研究プロジェクトや活動計画も当初の予定を変更せざるを得ませんでした。様々な工夫のもとに努力してまいりました。本活動報告をご覧いただきまして、研究所へのご理解と一層のご指導をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

女性未来研究所は、2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(SDGs:Sustainable Development Goals)を支援いたします。「誰も取り残さない」という理念のもと17の目標が設定されていますが、その目標の達成を目指すキーワードは「ダイバーシティ(多様性)」です。本研究所の研究活動もその目標達成へのささやかでも力となれるよう確実な歩みを進めてまいります。

川合 貞子

CONTENTS

令和2年度

東京家政大学 女性未来研究所

活動報告書

はじめに [川合 貞子].....	3
-------------------	---

Chapter 1

女性未来研究所

1-1 令和2年度 女性未来研究所 研究員等.....	8
1-2 令和2年度 女性未来研究所 活動記録.....	9

Chapter 2

研究プロジェクト報告

2-1 メタ学習能力とジェンダー観に着目した東京家政大学独自の キャリア教育・市民教育プログラムの開発	12
[並木有希／平野順子(保育科)／田中治彦(特活)開発教育協会代表理事／ 中村絵乃(特活)開発教育協会理事／渡邊歩(早稲田大学ジェンダースタディーズセンター助教)]	
2-2 人生100年時代女性の歴史を概観する教材を作るための基礎調査 学外諸組織と本研究所の連携事業の構想・運営	14
[樋口恵子／並木有希(英語コミュニケーション学科)／鮫島奈津子(附属女子中・高校)／ 崇田友江(附属女子中・高校)／河野澄子(高齢社会をよくする女性の会)／ 佐藤千里(高齢社会をよくする女性の会)]	
2-3 母親の自尊感情に着目した生涯教育プログラムの開発と実施に関する基礎研究.....	15
[平野順子／平野真理(心理カウンセリング学科)／並木有希(英語コミュニケーション学科)／ 廣田愛海(東京家政大学大学院卒業生)]	
2-4 育児期女性支援のための子ども向け講座の開発と実施／ 子どもの健康とその環境についての研究	16
[内野美恵／佐藤英文(児童学科)／森田浩章(児童学科)／井戸裕子(保育科)／ 木村博人(児童教育学科)／宮本康司(環境教育学科)／ トム・エドワーズ(英語コミュニケーション学科)／齋藤正子(清泉女学院大学専任講師)／ 大西淳之(栄養学科)／野原理子(栄養学科)／和田涼子(栄養学科)／大門美江(栄養学科卒業生)]	

Chapter 3 共催事業

- 3-1 東京家政大学女性未来研究所・板橋区・北区 共催事業
「子育てママの未来計画」…………… 18
[並木有希／平野順子]

Chapter 4 講演

- 4-1 樋口恵子名誉所長講演
「女性100年、過去から学び未来へ 正岡律の生き方に学ぶ」…………… 26
[樋口恵子]

- 編集後記 [事務局] …………… 35

Chapter 1

女性未来研究所

1-1 令和2年度 女性未来研究所 研究員等

1-2 令和2年度 女性未来研究所 活動記録

1

令和2年度 女性未来研究所研究員

所長代行

川合 貞子 東京家政大学名誉教授

名誉所長

樋口 恵子 東京家政大学名誉教授

兼任研究員

平野 順子 保育科准教授

並木 有希 英語コミュニケーション学科准教授

平野 真里 心理カウンセリング学科講師

内野 美恵 ヒューマンライフ支援センター専門員(准教授)

令和2年度 女性未来研究所 運営委員会

委員長

川合 貞子 女性未来研究所所長代行

運営委員

山本 和人 学長

手嶋 尚人 家政学部長

三浦 正江 人文学部長

今留 忍 健康科学部長

大澤 力 子ども学部長

篠澤 文雄 附属女子中学高等学校長

保坂 克二 総務部長

秋元 由江 学生支援センター事務部長

オブザーバー

木元 幸一 理事

岩井 絹江 理事

令和2年度 女性未来研究所 活動記録

9月 2日 ㊟	第1回運営委員会	
11月 27日 ㊟	子育てママの未来計画 『レジリエンス編』①	並木 有希 平野 順子
12月 3日 ㊟	オンライン講演 『多様な社会を生きる』及び『多様性を考える』授業内 「女性100年、過去から学び未来へ 正岡律の生き方に学ぶ」	樋口 恵子
12月 4日 ㊟	子育てママの未来計画 『レジリエンス編』②	並木 有希 平野 順子
12月 8日 ㊟	第2回運営委員会	
12月 11日 ㊟	子育てママの未来計画 『家政学入門編』①	並木 有希 平野 順子
12月 12日 ㊟	千代田区男女共同参画センター MIW (ミウ) 「子育てママの未来計画」 ～子どものいる毎日を充実させるために～ 『家政学入門編』①	
12月 18日 ㊟	子育てママの未来計画 『家政学入門編』②	並木 有希 平野 順子
12月 19日 ㊟	千代田区男女共同参画センター MIW (ミウ) 「子育てママの未来計画」 ～子どものいる毎日を充実させるために～ 『家政学入門編』②	
1月 20日 ㊟	緑窓会 秋田県支部との懇親会（緊急事態宣言のため中止）	樋口 恵子 野口 智子
2月 5日 ㊟	第3回運営委員会	
2月 19日 ㊟	子育てママの未来計画 『ライフデザイン編』①	並木 有希 平野 順子
2月 26日 ㊟	子育てママの未来計画 『ライフデザイン編』②	並木 有希 平野 順子
3月 19日 ㊟	第4回運営委員会	
3月 31日 ㊟	女性未来研究所 Web サイト 完成	

Chapter 2

研究プロジェクト報告

2-1 メタ学習能力とジェンダー観に着目した東京家政大学独自の キャリア教育・市民教育プログラムの開発

[並木有希／平野順子(保育科)／田中治彦(特活)開発教育協会代表理事／
中村絵乃(特活)開発教育協会理事／渡邊歩(早稲田大学ジェンダースタディーズセンター助教)]

2-2 人生100年時代女性の歴史を概観する教材を作るための基礎調査 学外諸組織と本研究所の連携事業の構想・運営

[樋口恵子／並木有希(英語コミュニケーション学科)／鮫島奈津子(附属女子中・高校)／
崇田友江(附属女子中・高校)／河野澄子(高齢社会をよくする女性の会)／佐藤千里(高齢社会をよくする女性の会)]

2-3 母親の自尊感情に着目した生涯教育プログラムの開発と実施に関する基礎研究

[平野順子／平野真理(心理カウンセリング学科)／並木有希(英語コミュニケーション学科)／
廣田愛海(東京家政大学大学院卒業生)]

2-4 育児期女性支援のための子ども向け講座の開発と実施／ 子供の健康とその環境についての研究

[内野美恵／佐藤英文(児童学科)／森田浩章(児童学科)／井戸裕子(保育科)／木村博人(児童教育学科)／
宮本康司(環境教育学科)／トム・エドワーズ(英語コミュニケーション学科)／
齋藤正子(清泉女学院大学専任講師)／大西淳之(栄養学科)／野原理子(栄養学科)／和田涼子(栄養学科)／
大門美江(栄養学科卒業生)]



[女性の未来と希望の支援]

メタ学習能力とジェンダー観に着目した 東京家政大学独自のキャリア教育・市民 教育プログラムの開発

並木 有希 / 平野 順子 / 田中 治彦 / 中村 絵乃 / 渡邊 歩

研究目的

女性未来研究所が担当する共通教育の授業「多様性と社会」のカリキュラム作成と教科書作りを行う。

方法

東京家政大学が培ってきた、日本全国の地域隔々で生活に密着して働く女性教育の歴史を踏まえ、大学の校是「自主自律」を今の時代にアップデートした形で伝える、大学独自のキャリア・市民教育教材を作成する。1年生の必修科目であることを念頭に置き、今後4年の学びの指針となるメタ学習能力を育てることを目標とする。また、市民教育分野の知見を取り入れ、実践的な学びの方法を確立する。大学内外の専門家の知見を取り入れつつ、実際の授業（共通教育共通科目「多様性と社会」「多様性を考える」）で実践しながら、最終的に教科書とカリキュラムを完成させる。

3年計画の1年目に当たる令和2年度は、年初からの新型コロナウイルス感染症の流行状況に伴い、大学においても、授業形態をオンラインへと大きく変更させることを余儀なくされた。秋学期までは状況の改善を待ったが、外部ゲストを多く呼ぶことが必須であるため、対面での実施は難しいという判断となった。そのため、授業形態と方法の抜本的な見直しが急務となった。

第一に、この授業の特徴である、大教室の講義科目でも双方向性を担保を、オンラインでも実現するための方法を調査した。そのため、2020年9月に、英国オックスフォード大学の提供するオンライン授業実施方策講座を受講した。この講座の中で、オンラインでのコミュニケーション方法に関する最新の知見を得て、ホワイトボードアプリ miro を使用した意見シェア、それを元にして学生を Zoom のグループに分けて行うグループ

ワークを基礎としたコースを作った。

第二に、共同研究者である早稲田大学ジェンダースタディーズセンター特別調査員と共に、授業内容を検討し、シラバスを作成した。改善点は以下の通りである。1) 例年の授業内容に加え、コロナ感染症に関する知識と対処法を学ぶ回を加えることとした。例年1年生が多い授業であるため、入学後すぐに非常事態下の学生生活を送ることになった学生の不安を取り除くことをねらい、心理的なサポートをワークとした。2) オンラインという形態では伝わる情報量が減るため、ゲストの講演とそれについてのワークを組にして、講演は授業外の課題とし、反転学習構成にし、授業内容を詰め込みすぎない様にした。3) オンラインならではの利点を生かし、ゲストの方々が普段仕事をしている場所や、中継的な映像の使い方を試みた。

シラバスに基づき、9月から2021年1月までオンライン授業を実施した。本学名誉教授樋口恵子先生の講演をする際に、女性に関する事項の年表をデジタル化した資料をオンラインで閲覧させることができ、新たな可能性が広がった。授業アンケートの結果は概ね全ての項目で平均を大きく上回る満足度を得た。また、提出物の内容に関しても、例年よりも深い洞察が感じられるもの、自分のキャリアについての真剣な態度が感じられるなどの変化があり、オンライン授業においては個別になるので学びが深まり集中力が上がるといった、利点を再確認することとなった。社会状況や入学者の質の変化もあるものの、概ね最近の若者のこのトピックに関する意識の高まりを感じることになり、確かな手応えを得た。

諸般の事情に基づきこの形式の授業は令和2年度で終了したため、3月から授業の報告書の作成と、初年度教育の一環としての Diversity & Inclusion 授業実践の可能性について、投稿論文の執筆に入った。これらの成果を踏まえ、全体の取り組みを総括して、令和3年度には報告書を作成する。

以下、シラバス添付

この授業では、学生が、東京家政大学でのそれぞれの学修を通して、責任ある21世紀の市民として多様かつ持続可能な世界を造り出すために何ができるかを考え、自らの行動につなげていくことを目標にしている。

授業の到達目標

- ①社会のダイバーシティの現状と問題点について多角的な視点から理解することができる。
- ②これまで自分にとって自明であったことについて、疑って見る視点を持ち、受動的ではなく積極的な態度で社会を見ることができる。
- ③理解できた問題点について、自分が今学んでいることと関連付けて、どのように貢献できるか述べるができる。
- ④グループでそれらを共有し、さらに探究・対話を重ね、その問題を自分事として捉えて、課題解決に向けて大学4年間の学修を定義できる。

授業の概要

- ・社会で不利益を被ることの多い社会的弱者の視点、そしてジェンダーの視点で、社会の様々な場面に起っている課題について考える。
- ・講義と資料によって現状・理論について把握し、各分野で活動している方からの講義を聞き、正しい知識と、問題解決のための行動の可能性について考える。
- ・それぞれの問題について自分のことに引き寄せて考え、ディスカッションを通して考えを深め、学修を通して積極的に社会に貢献していけるような視点を持つことを目標とする。

授業構成

授業前学修 (約 100 分) : 講師の講演の視聴 (オンデマンド・画像配信 30 分程度を想定) および 関連して与えられた資料を熟読し、その週の課題を、締め切りまでに manaba より提出する。

授業 (100 分) : 授業前学習の内容に基づく補足講義、グループディスカッション (zoom のブレイクアウトルーム機能と miro のホワイトボードを使用)、全体ディスカッション、発表・プレゼンテーション

授業後学修 (100 分) : 講義の内容のまとめ他、指示された内容を小レポートとし、締め切りまでに manaba より提出する。

授業予定

- 9月24日 第1回 オリエンテーション&自分の周囲と子供の頃ワーク
- 10月01日 第2回 「コロナの時代」と「不安」(講師: 東京大学大学院医科学系研究科非常勤講師 医師 高橋しづこ先生) 授業内: 「自分を大切にすること」ワーク
- 10月08日 第3回 「食」と「生活」①世界の暮らしのありよう (講師: 国際協力機構 (JICA) ミャンマー事務所企画調査員 (防災・メディア) 名古屋工業大学高度防災工学センター客員准教授 中村隼人先生) 授業内: 「世界の食卓」ワーク
- 10月15日 第4回 「食」と「生活」② 日本の中の貧困 (講師: セカンドハーベスト・ジャパン 武田幸佳先生) 授業内: 「相対的貧困」について
- 10月22日 第5回 緑苑祭振替授業休講 緑苑祭シンポジウムに参加する (各種講演レポート もしくは読書レポート)
- 10月29日 第6回 世界市民として生きる (講師: 一般社団法人 RunwayForHope 代表理事 OmidSenaVafa 先生) 授業内: 「構造的差別」について BlackLivesMatter とアメリカ大統領選
- 11月05日 第7回 日本の女性が歩んできた100年 (講師: 東京家政大学名誉教授 樋口恵子先生) 授業内: 世代の違う人から学ぶこと
- 11月12日 第8回 「ジェンダー」と「性別役割」(講師: 特定非営利法人ジェンダーイコール 副代表理事篠原くるみ先生、代表理事田淵恵理子先生) 授業内: ジェンダーについて考えるワーク
- 11月19日 第9回 LGBTQA+ ① (講師: 早稲田大学 GS センター専門職員) 授業内: LGBTQA+ に関する説明および取り巻く社会的現状
- 11月26日 第10回 LGBTQA+ ② 授業内: LGBTQA+ から考える性の多様性
- 12月03日 第11回 まとめ: 全体グループワーク②
- 12月10日 第12回 まとめ: 全体グループワーク③
- 12月17日 第13回 期末試験
- 1月14日 第14回 授業全体のまとめと解説

[人生100年時代の女性の人生]

人生100年時代女性の歴史を概観する

教材を作るための基礎調査

学外諸組織と本研究所の連携事業の構想・運営

樋口 恵子／並木 有希／鮫島 奈津子／崇田 友江／河野 澄子／佐藤 千里

研究目的

『人生100年時代』を考え広く女性の位置を考える事業を展開するため、基礎資料として、現在までの日本の女性史を年表の形として明確化し、女性関連の歴史を明確にする。政治経済の分野のみならず、家政大学の強みを活かして生活史、教育史を充実させたものを作成し、資料として出版する。

方法

学外の研究所、各種機関の協力をえて、様々な年表の相互チェックを行い、様々な視点を含んだ総合的な歴史記述を試みる。女性未来研究所の特色を生かして本学にとっての財産となる、家政大ならではの英知を結集した網羅的な歴史記録を作成し、自校教育の教材とする。

令和2年度の活動報告

本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況に伴い、さらに年表を充実させるための調査を実施し、研究打ち合わせをすることが難しくなった。また、大学における女性未来研究所出講授業及び自校教育授業の全面オンライン化、研究所企画の各種講演会などの中止に伴い、広く出版物を頒布するという計画についても見直しが必要となった。そのため、現在出版物としてまとめられている冊子を、webで閲覧可能な形式に変換して大学ホームページの一部としてアップロードすることによって、広く閲覧することを可能とした。令和2年度末に女性未来研究所ホームページの一部として閲覧に供されている。新型コロナウイルス感染症の流行状態は未だ予断を許さず、研究員が厚労省に従事している関係で研究活動の再開には感染状況の改善が必須であるため、その間は、オンラインのコンテンツの更なる充実を図る方向で計画を再編していく。

[人生100年時代の女性の人生] 母親の自尊感情に着目した生涯教育 プログラムの開発と実施に関する基礎研究

平野 順子／平野 真理／並木 有希／廣田 愛海

研究目的

本研究の3年間の目的は、家政大学の強みと特徴を生かした育児中女性の支援プログラムを開発し、効果的に実施していくための基礎研究を行うことである。

研究方法

現代の育児期女性の直面している課題や困難を正確に理解し、より効果的な支援方法を提供するため、第一に、レジリエンス、自尊感情、エンパワメントなどの基礎概念を研究し講座への援用方法を検討する。第二に、地域の育児中女性を研究員として、育児中女性の自尊感情に関する当事者研究を行う。第三に、他大学や他機関での事例・ベストプラクティスを参考とするため調査を行う。これらの結果を生かし、家政大学が育児中女性に提供する講座内容の精査、企画、実施を行う。

経過

令和2年度は3年計画研究の1年目に取り組んだ。新型コロナウイルスの流行状況に伴い、予定していた他機関でのベストプラクティスの調査、参加者を対象とした育児期女性の当事者研究、託児を伴う対面講座を実施するなど、本研究計画のコアの部分の実施が難しくなった。しかし、このような社会状況において育児期女性支援のニーズはさらに高まっていると考えられるため、代替手段として、オンラインで自宅から受講できる講座の開発と、その実施方法の調査を急務として行った。

その成果を、11月、12月に北区・板橋区・東京家政大学共催の「子育てママの未来計画」レジリエンス編、

家政入門編のオンライン版として提供した。テキストを各人に郵送で提供し、予習をしてもらい、その上でオンラインビデオ会議システム Zoom と、ホワイトボードアプリ Miro を中心としたソフトを用いて行ったものである。

また、発展編である「子育てママの未来計画ポートフォリオ・ライフデザイン編」の開発に向けて、2020年6月に米国スタンフォード大学デザインラボの「デザイン・ユア・ライフ」研修のオンライン講座に参加し、同学「ライフ・デザイン」関連教材使用の正式なライセンスを得た。その成果を生かしてブラッシュアップした講座を、2021年1月、2月にオンライン講座として提供した。

一方、研究補助員とともに前年に北区・板橋区の育児期女性3,000名に実施した調査データの再分析を行い、育児期女性の潜在意識における性役割認識や、その性役割プレッシャーと精神的健康やサポート授受との関連について検討し、支援における有用な切り口を探った。得られた結果について、論文発表（「母親の平等主義的性役割態度と社会とのギャップが就業と育児サポート受領に与える影響」東京家政大学研究紀要第61巻1号29-36頁）、学会ポスター発表（「育児期女性の性役割認識と精神的健康」「文章完成法からみる育児期女性の自己認識」日本発達心理学会第32回大会）を行った。

さらに、従来からの懸念であった講座のブランディングと周知用ホームページの作成について企画実施を行ない、3月に公開した。本プロジェクトで行う講座、また、関連の調査などに関する記事を掲載している。

今後は、新型コロナウイルスの収束までオンラインコンテンツの作成と充実が急務であるため、その方向での事例とベストプラクティス収集を行い、より良い講座の提供を模索したい。

[人生100年時代の女性の人生]

育児中女性支援のための子ども向け講座の 開発と実施

内野 美恵／佐藤 英文／森田 浩章／井戸 裕子／木村 博人／宮本 康司／
トム・エドワーズ／齋藤 正子

子どもの健康とその環境についての研究

内野 美恵／大西 淳之／野原 理子／和田 涼子／大門 美江

本プロジェクトは、東京家政大学周辺地域の子育て中家庭とその子どもに対して、大学の特徴を生かした体験学習を提供し、その学びについて検討するものである。三年計画の初年度として、母親と子ども等を取り巻く環境に則した食育・栄養指導にふれる機会を提供するための体制づくりの検討を課題としていた。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、人々の生活様式が一変したため、本研究の方向についても、この先しばらく続くことが予想される感染症対策を踏まえた新しい生活様式に対応した内容とする必要があると考え、その手法について検討することとした。

感染症対策を踏まえた新しい生活様式を取り入れた本学の先行事例として、東京家政大学ヒューマンライフ支援センターが実施しているオンラインによる体験学習の取り組みが挙げられる。一例としては、2014年から実施されてきた本学学生による近隣小学校への食育出前講座を、今年度は10分程度の動画として提供するというものである。動画は学生と教職員により制作され、2021年度は11件の食育動画が小学校の給食の時間に配信された。視聴した小学生と小学校教員からは、興味深く視聴でき、身近な生活面から学習を広げられるきっかけになったとの感想が寄せられ、食育に留まらず衣食住の生活全般にテーマを拡大した内容の動画を継続的に

提供してほしいとの要望につながった。

次いで、3歳以下の子育て支援広場として東京家政大学内に設置されている「森のサロン」では、外出できない親子が自宅でエクササイズできるようにと、親子体操講座をZoomによるオンラインで実施した。地域の子育て世代を孤立させないための新しいコミュニケーションの試みとして評価されている。

上記事例の成果を鑑みると、新型コロナウイルス感染予防の観点から、対面を避けた情報提供としてオンライン講座の実施や動画による生活情報の配信は、本研究が目指す本学の知的財産を地域へ発信する手法として有効であると考えられた。

しかし、我々が本研究で予定していた講座は、対面による育児中女性支援のための子ども向け講座の開発と実施であり、オンラインによる講座の開発については想定していなかったことから、研究計画を根本から見直す必要が発生した。検討した結果、本取り組みについては、新しい生活様式に対応した実現可能性を検討したことまでにとどまり、ここで一旦中止とする決断に至った。期を改め、今後の新型コロナウイルス感染の情勢を見極めつつ、新たな視点をもって東京家政大学独自の講座を立案していきたい。

Chapter 3

共催事業

3-1 東京家政大学女性未来研究所・板橋区・北区 共催事業
「子育てママの未来計画」

[並木有希／平野順子]

3

東京家政大学女性未来研究所・板橋区・北区 共催事業 「子育てママの未来計画」

例年、対面で講座を行っているが、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインにて講座開催を行った令和2年度の実施状況について報告します。

1. 日時

【レジリエンス編】

①令和2年11月27日（金）、②12月4日（金）

【家政学入門編】

①令和2年12月11日（金）、②12月18日（金）

午後1時から午後2時30分まで

4回連続講座

2. 実施方法

オンライン会議システム（Zoom ミーティング）
ホワイトボードアプリケーション（miro）

3. 参加人数・内訳

【レジリエンス編】

申込数：①29名、②30名

参加数：①26名、②27名

【家政学入門編】

申込数：①29名、②30名

参加数：①26名、②23名

4. 内容

講師：東京家政大学

人文学部英語コミュニケーション学科

並木 有希准 教授

【レジリエンス編】（二回連続講座）

忙しく家事や育児に追われる毎日で少し疲れてしまった女性が、一休みして自分のことを見つめなおし、こころの元気「レジリエンス」を取り戻す方法を学び、自分の自信を取り戻すためのワークショップを2日間で実施した。

講師：東京家政大学短期大学部

保育科

平野 順子 准教授

【家政学入門編】（二回連続講座）

家政学の考え方をを使い、自分の生活を見直し、自分の持っている「資源」を整理することで、いきいきと生活を回す方法を考えるワークショップを2日間で実施した。

5. オンライン講座実施の経緯と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症流行状況と緊急事態宣言の発出に伴い、2020年度は教育・福祉の場面での対面講座実施が全面的に難しい状況となりました。特に、託児を伴う事業は保育者の高齢化もあり、慎重な対応を取る必要がありました。大学だけでなく各方面での講座実施が自粛される中、このような状況で負担が増えているはずの育児中女性の支援が遠のくことが懸念されました。そこで、大学で急遽行われることとなったオンライン授業のノウハウを活かしたオンライン講座を設定することを企画しました。「ライフデザイン」編の内容提供を受けた米国スタンフォード大学の授業システムを参考とし、ビデオ会議システムとホワイトボードアプリを使用した講座を設計し、実施しました。

若干技術・接続の部分での課題が残ったものの、概ね好評で、参加者も大きく増えることとなりました。参加の場所を問わず、また仕事の合間に参加できる手軽さが新しい参加者を呼び込んだということだと思います。ホワイトボードアプリを使用することで匿名性が担保され、個人的な思いをより打ち明けやすくなったということも感じました。しかし、技術的な限界で参加できない育児中女性、つまり本来想定している参加者にどのような方法で講座を提供するかという課題が残りました。長引く感染防止状況の中、さらにアクセスしやすい手段を増やし効果的に提供していきたいと思っています。

2020年度 東京家政大学・板橋区・北区
女性の活躍推進に向けた三者共催事業

オンライン開催

受講料 無料
※申込料はご負担ください

子育てママの未来計画

子どもや家族と同じくらい、「自分」を大切にしていますか？
出産育児という大きな変化を機会として、自分の「これまで」や「これから」をイメージして、ポートフォリオ化するワークショップです。
私たちそれぞれが輝く未来を、一緒に考えてみませんか？

4日間連続講座

レジリエンス編

忙しい毎日の中でも自分らしくいるために

11/27 (金) 12/4 (金)
13:00~14:30

忙しく育児や家事に追われる毎日、ちよつとつかれてしまい、一体みして自分のことを見つめなおしたい方へ。こころの元気「レジリエンス」を取り戻す方法を学び、自分の時間を取り戻してみませんか？

定員：30名

家政学入門編

子どものいる毎日を充実したものにするために

12/11 (金) 12/18 (金)
13:00~14:30

家政学の考え方を使い、自分の生活を見直し、自分の持っている「資源」を整理していきます。忙しさにまれば、自分と家族にとって大切なことを見つけ、いきいきと生活を回す方法を考えていきましょう。

定員：30名

● 4回続けて受講できる方を優先いたします。
● 2018,2019年度開講「子育てママの未来計画」と同内容です。
● 不明な点は窓口までお問い合わせください。

東京家政大学 女性未来研究所 板橋区 東京都北区

講師
東京家政大学女性未来研究所
並木 有希氏 (東京家政大学文学部准教授) 平野 順子氏 (東京家政大学短期大学部准教授)

オンライン開催について

使用アプリ
Zoom

参加に必要なもの

- パソコン・タブレット端末など、Zoom対応のデバイス
- ワークショップに参加できるインターネット環境 (通信料はご負担ください)
- イヤホン、webカメラ、マイクなど (任意)
- 「子育てママの未来計画」テキスト (お申し込みされた受講者の方へ送付いたします)

お申し込みいただいた方に、後ログイン情報をお送りさせていただきます。
あらかじめZoomアプリをダウンロードし、正常に動作することをご確認ください。
録音・録画・スクリーンショット等は禁止といたします。
ワークショップは、カメラと音声をつなげてご参加いただきます。
パソコンを使用する場合は、webカメラとマイク (内蔵カメラ、内蔵マイクもOK) が必要です。
ネットワーク環境が安定した場所からご参加ください。
公衆無線LAN (Free Wi-Fi) など不特定多数のものご接続できるアクセスポイントを利用しないようご注意ください。

お申し込み
各区のメールアドレス宛に、下記内容を記載してEメールでお申し込みください。
件名：子育てママの未来計画 内容：①メールアドレス ②氏名 (ふりがな) ③住所 ④電話番号

板橋区の方

j-danjo@city.itabashi.tokyo.jp

申し込み期間
2020年10月26日(月)~2020年11月19日(木)

北区の方

danjo-c@city.kita.lg.jp

申し込み期間
2020年10月21日(水)~2020年11月19日(木)

*QRコードを読み込むと、メール作成画面に繋がります。

お問い合わせ

板橋区の方

板橋区役所
男女社会参画課男女平等推進係
TEL: 03-3579-2486
E-mail: j-danjo@city.itabashi.tokyo.jp

月~金 / 9:00~17:00 土・日・祝 / 休

北区の方

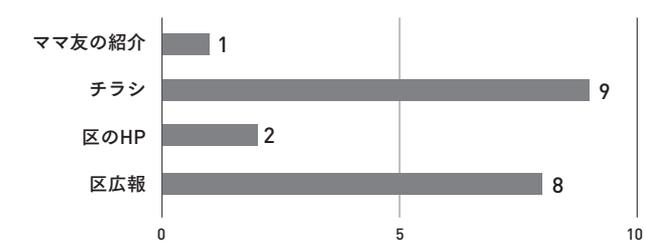
スペースゆう 北とびあ5階
(北区男女共同参画活動拠点施設)
TEL: 03-3913-0161
E-mail: danjo-c@city.kita.lg.jp

火~土 / 9:00~21:00 日 / 9:00~17:00 月・祝 / 休

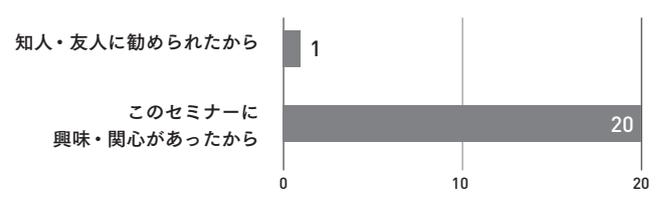
Designed by Tokyo Kasei Huiso
*QRコードの複製は(株)デジタルウェアの登録商標です。

「子育てママの未来計画」【レジリエンス編】アンケート集計 回答数:20

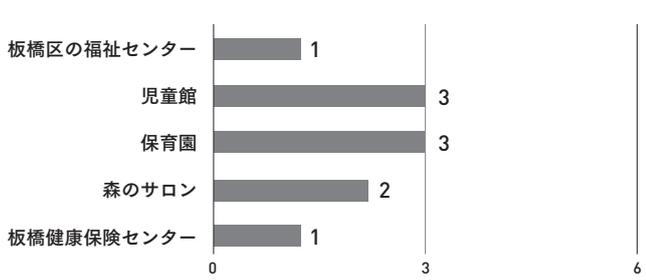
Q1 「子育てママの未来計画」を知った計画を教えてください (複数回答)



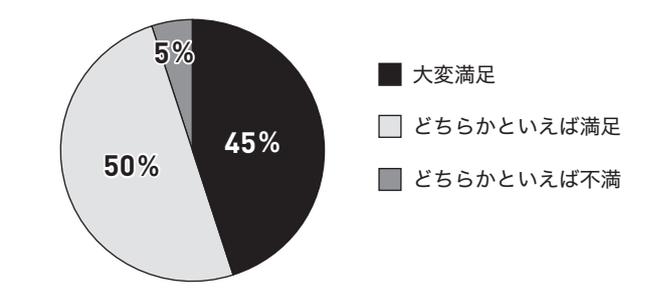
Q3 「セミナー」に参加したきっかけは何ですか? (複数回答)



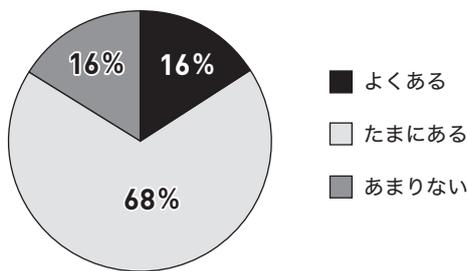
Q2 上記でチラシと答えた方、どこでチラシをもらいましたか?



Q4 今回のオンラインセミナーの満足度を教えてください



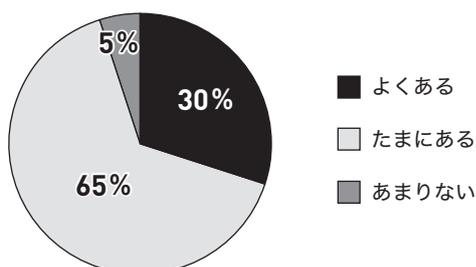
Q5 あなたは日常生活において、自分に対して肯定的な感情を持つ（自分自身に満足する、自分を価値ある存在を感じる、自分に自信自信を持つなど）はありますか？



Q6 それはどのようなときですか？

- ・考えてたことが実際に行動に移せた時
- ・家族に必要とされた時。
- ・仕事で評価された時。人に必要とされた時
- ・自分自身を見つめたり、自分の為に何かする時間はほとんどない
- ・家族に必要とされたとき
- ・家族に必要とされたとき
- ・仕事をしてる時
- ・子供を無事夜の寝かしつけまで終えたとき。
- ・自分の時間を持てた時
- ・仕事で評価された時、人から褒められた時
- ・特に意識していない だいたいいつも
- ・児童館などで知らない人と仲良くなったりする、家事をうまくこなす
- ・旦那さんが作った料理をほめてくれた時
- ・子供の成長を感じる時
夫との関係やコミュニケーションが良好な時
- ・計画をたて、うまく実行できたとき
- ・夫から感謝された時
- ・家事がうまくできたとき、問題解決ができたとき

Q7 逆に、自分に対して否定的な感情を持つ（自分に不満を感じる、自分が価値ある存在と感じられない、自分に自信がないなど）ことはよくありますか？



Q8 それはどのようなときですか？

- ・やろうとしたことができなかった時
- ・子供中心のスケジュールで生活するしかなく、自分のことは常に後回しになって何も褒められないのに、何かできていないことがあるときはすぐ指摘されたりするから。
- ・家族中心に動いてしまっているため
- ・子どもを怒ってしまった時、誰かに注意された時
- ・家事と育児で時間だけ過ぎていて何も出来ていないように感じる
- ・子どもといたら過ごして時間を無駄にしていると感じたとき。
- ・子どもとだらだら時間を無駄に過ごしたとき
- ・仕事を失敗した時
- ・子供が情緒不安定なとき
- ・物事が上手くいかない時、イライラしている時、不安な時、子どもが言うことを聞かない時
- ・仕事が上手く行かないとき、家事ができないとき、家族や友人との関係が上手く行かないとき、計画通りに進まないとき
- ・自分の失敗で何かがうまく行かなかったとき。
初めてなら良いが、よくある失敗をしたとき。
- ・子供がうまく寝られない。会話で言葉が出てこない
- ・看護師でありながら現在育休のため社会貢献していないこと
- ・予定通りに物事が進まない時
子どもにイライラして怒鳴ってしまう時
育児などで孤独を感じる時
- ・うまく人に対して柔軟に接せない時
- ・要領が悪くて、子どもたちを邪魔だと思ってしまったとき
- ・家事育児がうまくいかないとき

Q9 今回、コロナウイルス感染予防のため、対面式ではなく、オンライン講座として開催いたしました。感想やご意見、今後のご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください

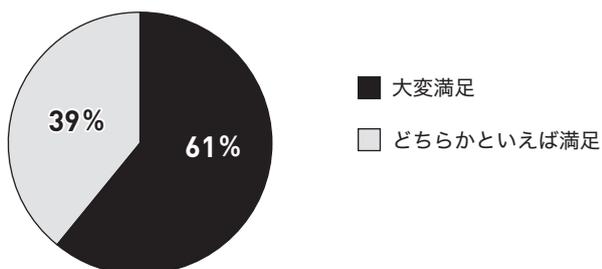
- ・対面式の方が話はいっぱいできると思いますが、オンラインは移動時間がないのがいいですね。また、子どもがまだ0歳なので、家にいたまま受けられるのはすごく助かりました。
- ・特に不便さは感じなかったが、もっともっと講師や参加者の方とコミュニケーションを取れると楽しいなと思った。
- ・ホワイトボードアプリがとても楽しかった
- ・むしろオンラインで良かったです。
- ・子育て中でも環境さえ整っていれば気楽に参加出来て、

- オンライン講座はとてもいい取り組みだと思う。今後も色々なオンライン講座を増やしてほしい。
- 子連れで外出するのも大変なので、オンラインはとも良かった。
 - コロナでなくても子連れで外出するのは大変なので、オンラインはとても良かった。
 - 子供がいても気軽に参加できるので、感染予防が必要なくなったときも、対面かオンラインか選べるといいなと思いました
 - 移動時間や交通費が削減できるオンラインでの講座開催はとても助かりました。コロナ収束後もオンラインでの参加枠があれば、対面だけの時よりも多くの方が参加できるので嬉しいです。
ミロ等で簡単な自己紹介をした上で、ブレイクアウトルームで講師と他の参加者の方とも話してみたかったです。
(今回の運営上、仕方ないですが、先生同士は盛り上がっていたけれど、他の参加者はどういう温度感なのか気がなりました。)
講座の内容は分かりやすく、日常にも取り入れやすく満足でした。また来週も楽しみです。よろしくお願ひします。
 - 今まで受講したくても平日で諦めていましたが、今回は在宅勤務で時間休を取って参加できたので、良かったです。
ただ実際に会話ができないのは残念なので、ブレイクアウトセッションがあるとよいです。
実際に会ってお茶をしながらお話しできれば楽しそうです。
 - 小さい子供を見ながら参加できるので、とても助かっ

- た。意見も出しやすかった。これからもオンラインだと助かります
- オンライン講座ははじめてだが、今の自分に無理なくできていい
 - 子供がいるのでオンラインありがたいです
 - オンラインですと子供の面倒を見ながら受講できて楽でした。
 - ビデオ & マイクオフがオッケーだったので、乳児がいてもストレスなく参加できた。
反面、講師や参加者同士の交流がなく印象に残りにくい。
講座の趣旨がわかりにくかった。
外出する負担がなく、無料で参加できたのはありがたかった。
 - とてもよかったです。ミロに関してはもう少しゆっくりお手本をみせていただけるとわかりやすいと思います。また参加したいです。
 - ありがとうございます。
息子がぐずぐずであまり集中できませんでしたが、事前に資料を頂いていたため、後から読み直したりと勉強になりました。家族のためだけでなく、自分に対してもっと優しく、甘く、手を抜きつつやっていきたいと思いました。

「子育てママの未来計画」【家政学入門編】アンケート集計 回答数：18

Q1 家政学入門編の満足度を教えてください

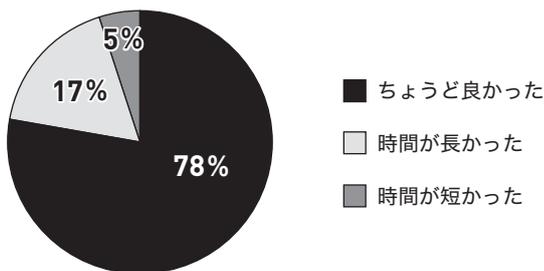


Q2 上記を選んだ理由を教えてください

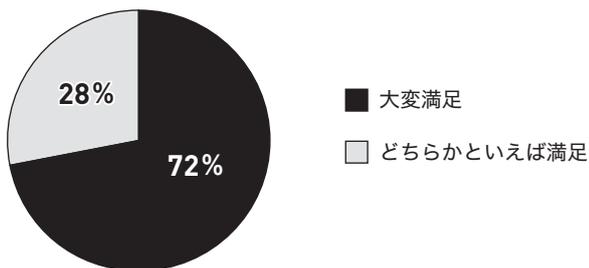
- 今まで、これからの自分へのイメージがいつも持てずにいたのですが、今回初めて、自分が好きだったことから棚卸してみ、初めて未来へのイメージが持てました。
- 自分の時間を持つきっかけになった
- よい息抜きになった
- レジリエンス編と被る内容が多かったため
- いろいろと考えるところがあり、ためになりました。
- 自分自身を見つめる時間を持てたので
- 自分の持っている資源を可視化できた。
- 自分自身を見つめる時間を持てたので

- ・自分の時間を持つことができた。人に頼ることが悪いことでは無いと思えた。
- ・いろいろな人の意見が聞けたから
- ・4回とも楽しく興味深い内容でした。チャットだけなのでブレイクアウトセッションなどでマイクオンでも話せる時間があると良いと思います。
- ・慌ただしく過ごす今の状況を整理することができたので心に少し余裕ができた気がします。
- ・自分の時間が24時間でどれくらいあるのかハッキリと分かり、その時間をもっと大切にしようと思うことができた。
描きずらくなっていた自分の未来を、描くことができる！と意識できた"
- ・使える社会資源をうまく活用すれば、仕事しながら子育てできると学んだ。
- ・考えることが多かったがそれにしては時間や進行がイマイチ足りなかった。

Q3 セミナーの時間はいかがでしたか？



Q4 今回オンラインセミナーで ZOOM を使用してみて、いかがでしたか？

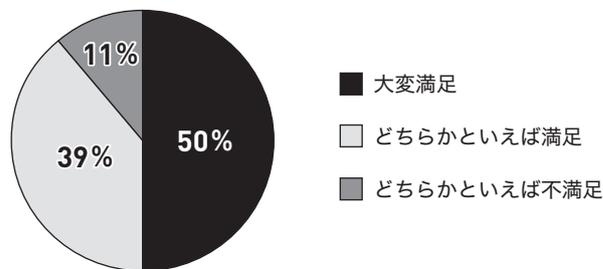


Q5 ZOOM の感想

- ・授乳しながら参加したりとか、オンラインだからこそ今回の講座も気兼ねなく参加できたので、オンラインセミナーも良いなと思いました。ZOOM は仕事やプライベートで使いなれてるので、それもよかったです。
- ・音声 & ビデオオフだったので、ストレスなく参加できた

- ・体調を気にせず楽に拝聴できるので対面よりもよかったです
- ・子どもがぐずると全く聴こえず、イヤホンをすれば良かったです。
- ・初めてでしたが面白かったです
- ・子供がいても参加する事が出来るのでとても便利だと思います
- ・使い方の資料を事前に送っていただいたので問題なく使えた
- ・子供がいても参加する事が出来るのでとても便利だと思います
- ・在宅勤務の合間にできてとてもよかったです。
- ・マイク、映像無しで参加できるのは、乳児を抱える身としてありがたかった
- ・ZOOM は使い慣れているので自宅で受講できてよかったです。
- ・0歳児がいるのでオンラインセミナーは大変助かりました。オンライン会議のツールは仕事で使っていたので問題ありません。
- ・今回は対面・音声なしで、今の自分には合っていた
- ・行き帰りの手間なく、子供の面倒を見ながら授業を受けられてよかったです。

Q6 今回オンラインセミナーで miro (ホワイトボードアプリ) を使用してみて、いかがでしたか？

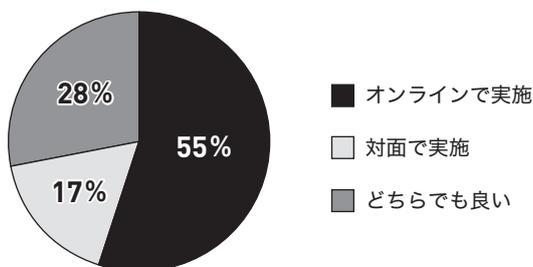


Q7 miro の感想

- ・初めて使いましたが、オンラインでもこんなリアルタイムで意見や情報交換したりできるのか！と感動しました。ミロでいつまでも皆さんとお話したい気持ちでした。
- ・初めて使ったが、他者の意見も見られて楽しかった
- ・もう少し一番最初の説明をゆっくりしていただければありがたかったです
- ・スマホからだったので操作が難しかった
- ・PCでしか参加できないのが不便でしたが、楽しく使うことができました。
- ・初めてでしたが面白かったです。他のママさんのコメントを読むのも楽しかったです。参考になります。

- ・初めて使いましたが面白かったです
- ・参加者のコメントが集まると作品みたいになるところが楽しかった
- ・初めて使いましたが面白かったです
- ・すごい画期的だなと思った。文字の大きさを変える方法がわからなかった。
- ・他の人の意見が見えるのでよいが、ウェブサイトで開くのが重たいようで、読み込みに時間がかかった
- ・ホワイトボード機能でみんなの意見が可視化されてデザインも可愛かったです。
- ・スマホでも操作できるといいなと思いました。
- ・面白かった。個人間だけでなく、全員と意見を共有できた
- ・皆さんの思いが一目瞭然でわかりやすかった

Q8 今後、セミナーに参加するとしたら、対面とオンラインどちらを希望しますか？



Q9 上記を選んだ理由を教えてください

【オンラインで実施を選択】

- ・コロナが落ち着いたら、託児付きの対面参加をしたい。
- ・体調に不安があるため
- ・子育て中でも気軽に参加しやすい為
- ・在宅勤務の合間に参加出来るから。コロナの感染リスクが無いから。
- ・制約が少ないので参加しやすい
- ・子供が小さく、コロナ禍で通うのが難しいため。
- ・対面も良さもあるが、オンラインはより時間を有効に使えると思った
- ・行き帰りの手間、準備の手間がなくて楽でした。

【対面で実施を選択】

- ・直接出向いてやれる方が集中して受けられると思うから。
- ・やはり集中力に欠けると思いました。

【どちらでも良いを選択】

- ・オンラインは参加するのが気楽でいいですが、せっかくだから対面で会えるのもいいなと思いました。
- ・どちらにもメリットデメリットがある

- ・オンラインのほうが気軽に受けられるけれど、やっぱり対面でしか出来ないこともあると思うから
- ・それぞれの利点があるため。COVID19が収束したら対面実施したいが平日だと参加が厳しく、その点オンラインだと便利なため。

Q10 セミナーに参加しての感想やご意見をご記入ください

- ・初めてのオンライン講座でしたが、参加してみて楽しかったので、次回も参加したいです！また別のオンライン講座にも積極的に参加してみようと思いました。
- ・セミナーの趣旨がわかりにくかった。全4回は長い気がした。
- ・とてもよかったです。またテキストのデザインがすてきで、講座が終わった後も持っていようとおもいます。ありがとうございました！
- ・ありがとうございました！自身を見直す良いきっかけとなりました。
- ・とてもいい刺激を受けました。子育てママを頑張ろうと思いました。
- ・自分を見つめ直すいい時間になりました
- ・とてもいい刺激を受けました。子育てママを頑張ろうと思いました。
- ・頑張っても無理して母を頑張らなくていいのかと思えました。
- ・縛りがないので参加しやすくてありがたかった。一方で縛りがないので宿題をさぼり、身に付きにくかったのも事実。
- ・レジリエンスについては以前から興味があったので今回詳しく知ることができました。家政学についても時間等を資産として考えることで生活を見直すきっかけになりました。
- ・今は0歳児の子育てで自分の時間をとることすらままならないですが、そんな期間は短く貴重であると先生方より学びました。また5年後、10年後の将来を想像しながら生活を送ることで、ルーティンをこなす毎日も建設的に思えるように少しマインドセットが変わったような気がします。またこのようなセミナーがあったらぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- ・子育てしながらの仕事、家事、育児のやりくりを共有して、良い方法を考えられた
- ・レジリエンスについて深く知りたいです。

Q11 今後、企画して欲しい、または参加したい講座がありましたら、ご記入ください

- ・今回のセミナーとても面白かったのですが、どうせならママにこだわらず、パパと一緒に受けたりできたら、もっと時間の使い方とか任せるところとかの話も一緒に考えられていいのになと思いました。
- ・発達障害やグレーゾーンの親の社会資源に関するセミナー
- ・オンライン料理教室
- ・オーガニック食品や添加物などについて学べる講座があれば参加してみたい。
- ・オンライン料理教室
- ・育児の悩み、家事や仕事の悩み、パートナーとの関係などを参加者とミロで共有したい。
- ・オンラインで受かることのできる、お金や家計に関する講座
- ・アンガーマネジメント、コーチング、キャリアデザイン、メンタルヘルス、マインドフルネス
- ・レジリエンスを学ぶにあたり、自分らしさとは何か学びたいです。

Chapter 4

講演

- 4-1 樋口 恵子名誉所長 講演
「女性100年、過去から学び未来へ 正岡律の生き方に学ぶ」
[樋口 恵子]

4

樋口 恵子名誉所長 講演

「女性100年、過去から学び未来へ 正岡律の生き方に学ぶ」

樋口 恵子

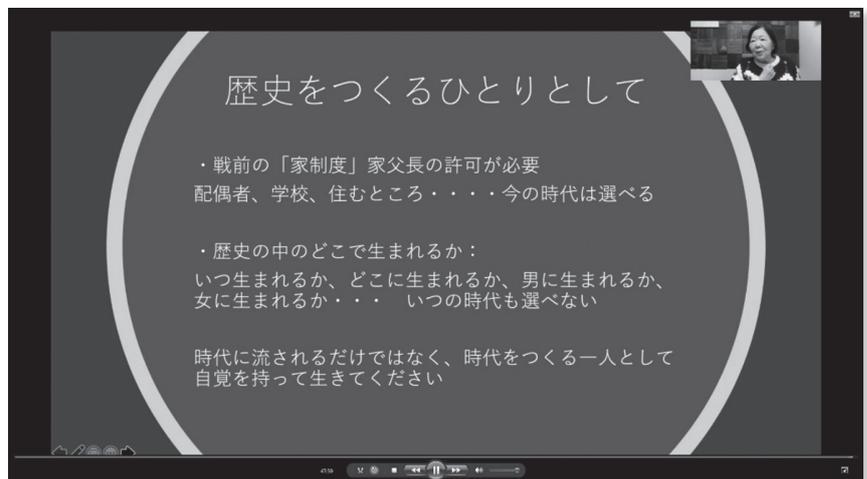
2020年12月3日(木)に女性未来研究所がコーディネートする共通教育科目『多様な社会を生きる』・『多様性を考える』授業にて樋口恵子名誉所長がオンラインにて講演を行った。

講演を聞いた受講生からは、「正岡律のように挑戦する努力を惜しまずに生きようと思いました。」や「今自分が自由に学んでいることに改めて感謝しなければなら

ないと思いました。」などの感想が寄せられた。

※感想は次ページに掲載

講演の最後に「時代に流されるだけではなく、時代をつくる一人として自覚を持って生きてください。学びの場にいることを活かして、皆様の人生設計を開いていただきたい」と受講生に向けてメッセージを伝えた。



感想

今回の講義を受けて、改めて女性の地位を渡邊辰五郎をはじめ昔の人が変えていってくれなければ今の私たちの選択肢はもっと狭まっていたと思います。私は今、大学でこうして学ぶ方ができているが、ただ生まれた時代が違っただけで学ぶことができなかつた人が沢山いることを感じました。わたしはまだまだ日本には男女格差があると思っています。最近では女性だけでなく男性が差別されているような分野もあります。これからの未来でそういった点で選択肢を狭まれる人がいないように、今回学んだことを心に留めて社会で活躍したいと思いました。

女性の生き方が変わってきた今の時代であっても課題があり、自分はその時代に流されるだけでなく、つくるという意識をもって生きることが大切だと感じた。また、時代によって変わってきたことで女性同士で語り合う場が出来たので私も切磋琢磨できる友人が出来たらいいなと思った。

仰臥漫録を読んだ時、最初は病人なのにたくさん食べるなあと感想しか持たなかつたのですが、だんだんと妹の律に感情移入してしまい最後まで読み切ることが出来ませんでした。本の持ち主である母に正岡子規最低だから読みたいと伝え、本を返しましたが「いいから最後まで読みなさい」といわれ流し読みをした記憶があります。

福祉を学び、だんだん正岡子規がなぜあんなに律をけなしていたのか分かったような気になってきました。

旅行や野球が好きでアウトドア派だったのに、病気になり体が動かさず死の恐怖におそわれながら生きる中でフラストレーションを発散する先が律しかなかったのではないのでしょうか。

決して楽ではない辛い介護をやりきった律が、自分の人生の希望を捨てず最後まで自分の人生を生きたことにとっても感動しました。

生まれる時代を選ぶことはできない、しかし時代に流され、したいことをあきらめて生きるのではなく自分の道を突き進み、生きたいように生きていきたいと思いました。

律さんの向上心と行動力に驚きの連続であつた。私はコンプレックスはコンプレックスのままだと思ってしまうし、なるべく隠して考えないようにいきたいと思ってしまうが、律さんはそれをばねにして挑戦し続けていて、

女性としてももちろん人として尊敬すべき点しかないと感じた。

何か気になること、やってみたいことがあつたらまずはやってみることを大事にしていきたいと思った。

私は児童学科で保育について学んでいるのですが、律の挑戦した人生を見ると、専門的なことを学べるということは自分にとってとても強い武器になるし、ありがたいことなんだと気づきました。

自分の力になる学びを得られる機会を大切にしようと思いました。

自分と人間を信じて挑戦するという言葉がキーワードだと思いました。正岡律の生き方を通して、時代に問題があつても、課題があるということは可能性があるのだという考え方を持ってこれから生きるべきだ、と樋口先生が私たちに向けて話してくださつたのだと感じたからです。

今日の講義にて、正岡津の後半の人生は今私が置かれている状況と似ていると思いました。彼女は人生の前半部分を兄の看病のために捧げ、学びたいことも満足にできる環境にいても「男尊女卑」の思想からそれが叶わない人生でした。しかし、兄が亡くなり看病を終えたことによって、自分の新しい人生をスタートさせました。看病時に新聞を読み、情報収集することで、自分の置かれている環境や周りの環境が変わった時に職業学校へと通い、女性として素敵な人生を送りました。

このような内容を聞き、コロナウイルスで自分がやりたいことが満足にできない状況でも、今やれることをこなし、いつか収まった時に備えようと思いました。私は今頃、海外の大学へ留学する予定でしたが叶わず、ネガティブな気持ちで過ごすことが多かつたと思います。しかし、以前の英語力や知識だけで行く留学よりも、このコロナウイルスの影響を活かして学びを増やし、知識を増やしてから行く留学の方が得るものも増すと思えました。

今、私は大学に進学し当たり前のように授業を受けていますが、この日常はとっても幸せなことなのだなと気づきました。自分のやりたいことを1番に考えてくれ、進学をしてくれた両親や祖父母に心から感謝を申し上げねばならないのだなと改めて思われました。

「今できなくても、絶対にあきらめてはいけない」という言葉がとても印象に残っていて自分の人生は自分で作らなければいけないと強く思いました。

現在でも特に日本は男女の差が大きくあるように感じられますが、それでも大きな変化を経てここまで来たのだと感じられました。特に明治以降から現在にかけての変化はそれまでのほとんど変化のなかった時代に比べると、男女で大きな差があることが当たり前であったところからその差を埋めようと様々な運動や活動が行われ、実際に差が埋まってくるようになるまでとても目まぐるしいものに思えました。この流れが続いていけばいずれは本当の男女平等が訪れるのではないかと思え、これからへの希望のように感じられました。

一年生の時に、スタートアップセミナーで、男女平等な教育の歴史、東京家政大学の歴史などを学びました。しかし正岡子規の妹である正岡律が、公立女子職業学校に通い、その後教員として働くようになったことは初めて知りました。最後のまとめで、彼女は低学歴や無学のコンプレックスをばねにしたというのを見て、わたしも見習わなければいけないなと思いました。

今とは違って、目に見える格差がとても大きいと思った。今も見える格差はあるけど見えない格差の方が多いと思ったので、お兄さんだけ学校に通えて自分は看病するなんてって思ってしまいました。正岡子規が最後にとってもいい看病人だったみたいなニュアンスでエッセイを書いていたがわたしはこれについてそのために律さんが生まれたかのように書かれていてすごく腹がたった。

今自分が自分の人生を自由に選べることは、過去の方の行動のおかげだと知りました。このことに感謝してしっかりと意思を持って生きる必要があると思いました。

講演の中の、ただ時代に流されるのではなく、時代を作る一人として生きていってほしいという言葉に深く感動し、本当にその通りだと関心しました。とても聞き取りやすい話し方で、言葉がストレートに入ってきました。

同じ兄妹ですら当時は学歴に物凄く差があり、女性の活躍する場が極端に限られていたことが理解できた。仰臥漫録に記載されていた子規の言葉はとても理不尽なものだったが、当時の社会背景を色濃く表すものだと感じた。

今でこそ「結婚が女の幸せ」「30代までに結婚しないといけない」というような風潮があるが、当時はもっとそれが強く、それを現代でも少なからず引きずっている現状があるのだなと思った。

そんな中でも自分の気持ちに正直になり、希望を捨てずに行動を起こし続けた律は本当に素晴らしい方だと思った。当時の律の年齢で「学びたい」と声を上げることはとても勇気が要ることだったと思うし、誰もが賛同したわけではないと思う。そういった視点で見ると前回と前々回で学んだジェンダーと通じる部分があると感じた。

自分の希望どおりに行動できない場面にぶつかった時、時代や社会のせいにして諦めるのではなく、今できることは何なのか、どうすれば現状を打開できるのかということを中心に考え、どうすれば現状を打開できるのかということを中心に考え、どうすれば現状を打開できる人間になりたいと思った。

「歴史の中のどこで生まれるかは選べないけれども、時代に流されるだけではなく、時代をつくる一人として自覚を持って生きてください」という言葉を忘れずに、正岡律のように挑戦する努力を惜しまずに生きようと思いました。

現代でも男女差を感じることはあるが、昔はもっと男女差が激しく、男子が優先な場面が多くあったことを学ぶことができた。男女一緒に勉強することも許されず、就学率が倍以上差が開くなど、今では考えられないことが起きていたことを知って、学校で男女平等に勉強できること、就職できることは当たり前なことではなく、幸せなことだと思った。

樋口先生が最後におっしゃっていた内容において、大学で勉強することと同じくらい友達を大切にしようと思いました。そして、同じクラスや学科、他学科の人との交流を大事にすることは自己成長に繋がり、学びも様々な面で増えると思いました。

この講義を聞き、自分が大学に通えることに感謝し、学べる環境が整っている環境のありがたみを改めて感じました。

感想

先生が講義内でおっしゃっていた「今できないことがあってもあきらめないで。そしてそれができるときになったら勇気をもってそのチャンスに飛びついて。そのためにできない間にも情報収集を怠らないで。」というメッセージが印象的でした。今は感染症の流行によって、やりたいことがあっても、それにすぐに取り組むのはなかなか難しいと思います。

実際に私は留学ができず、とても悲しいです。ですが、今できないからこそ情報収集をして、準備をして、そしていつかチャンスが来るのを待ちたいと思います。正岡律の人生のように、自分であきらめなければ不可能はないと思います。今できないこともいつかできると信じて、頑張っていこうと思います。

とても身になる話で聞いていておもしろかったです。先生の口調や話がとても聞きやすく、スライドも見やすかったです。

自分が大学に行けて自分のやりたいことをやっていることはとても幸せなことだと思いました。それと同時にこの機会を無駄にせず自分の糧になるような学びをしたいとも思いました。

正岡子規の壮絶な人生、女性の教育についてなどどれも興味深かったです。私たちが今平和で平等に学べていることに感謝したいと思いました。

「時代に流されるだけでなく、時代をつくる一人として自覚を持って生きてください」という言葉が印象に残りました。

歴史を知って生きるのと、知らないで生きるのでは差があると思ったので今回学べて良かったです。

講義を聞いて、今自分が自由に学べていることに改めて感謝しなければならなかったと思います。また、先生のお話にあったように、自らの夢を語り合える友人を大切に、夢に向かって諦めず努力するという姿勢を何よりも大切にしようと思います。ありがとうございました。

樋口先生のご講演を聞いて、私も目標を見つけてそれを強く持って諦めないで情報を集めて行動を起こそうと思いました。今の私たちとは違う時代も生きていて色々な思いをされて私たちが感じたことの無い気持ちをたくさん感じてきて今こうして輝かれているんだと思いました。私も樋口先生のようにになりたいと思いました。私も何かに一生懸命になって強く生きます。

私たちはこれから1人の女性として社会に出ていくわけですが、男女が教育を受けたり技術を身につけたりする機会が平等になりつつあり、どんな職につくか、どんなキャリアを積んでいくか少し先の未来まで考えて行動していきたいと思いました。女子だからとかは関係なしでジェンダーのステレオタイプから抜け出した考え方ができるようになりたいです。

今では女性が男性と共に学んだり働いたりすることは当たり前ですが、そこに至るまでには男尊女卑という考え方に長い間縛られてきた歴史があることがよく分かりました。そんな時代の中でも律は自分が女性であることや社会の風潮を言い訳にすることなくきちんと行動を起こし、自分の学びたいという思いに嘘をつきませんでした。だからこそ誰よりも学びに対する姿勢が素晴らしく、最終的に彼女が納得できる人生を歩めることに繋がられたのだと思いました。

現在一人の女性として家政大で学べていることは本当に貴重なことで、決して当たり前ではないということを再認識出来ました。もう一度初心にかえり、律のように志を高く持ち続けたいです。そして講義内でも先生が仰っていたように、学内外で多くの友人と出会い貴重な経験をたくさん積み、社会で活躍できる人間になりたいと思いました。

今回の講義を聞き、時代の移り変わりと同じく、男尊女卑の思想が薄れていったなあということを感じました。たしかに、祖父、祖母などのお年寄りの話を聞いたときに、男性主体だと感じるが多々ありましたが、昔の思想に囚われない平等な考えを持つよう改めて思いました。

女性の地位は昔に比べて、今は男性とほぼ対等にありますが、そうした変化が起きたのは女性たちが活躍してきた歴史があるからだだと改めて実感しました。

正岡律のはなしは、高校の時に少し触れる機会がありました。正岡子規が悪口を書いていたのは知っていましたが、その後約半年で学校に入る行動力はすごいと思いました。学びたい気持ちも、尊敬する兄へ尽くすこともちょうも持ち続けていて、芯が通っていると感じました。また、自分がやりたいことのために勉強を怠らず情報を集めたりするところは時代背景も含めて考えるととてもすごいことだと感じました。

正岡律という方の存在を初めて知ったが、彼女は自分の人生を自分で切り開いているように感じた。今回の講演を聞く限り、兄である正岡子規の看病をし続けていたのも、彼女が兄を尊敬していたことによる自発的なことだと思われるうえ、兄の没後は自分一人で生きていくためにキャリアを積み、4年間小学校に通っていたという学歴を彼女が生きていくうえでの足かせにならないよう高等技能者になるために私費留学をしている。女性は結婚して夫の下で生きていくという風潮が強かった当時にも関わらず、自分の力で生きていく意思が彼女の人生から見て取れることは今の私たちも見習うべきことだと思った。

自分たちはただ、時代の流れに沿って、ただ逆らわずに生きていくのが正解であると考えていました。自分が時代を作るなど考えたこともなかったため、「時代を作る一人としての自覚」を全く持っていなかったのだと自覚させられました。

人は必ずしも、あらゆる時に志を得るとは限らない、今できなくても諦めないことという言葉聞き明治時代でも現代でも目標に向かって諦めないことは大切なんだと気付かされました。

学や知識をいうものは、自分の権利を守るために必ずなくてはならないものだと感じました。誰かに頼らなくても、一人で生きていける環境を手に入れることが大事だと思いました。今でも女性だからという理由で不利になることが残念ながらあると思いますが、私たちの若い世代が発言して変えていかなければならないと思いました。

講義を通して、私の父親の家系は昔の名残がまだまだ残っているように思いました。私の父親の家系は、女は男の言うことに従えということが未だにあります。諦めないことが大切、友人を大事にという先生のお言葉を聞いて、今は困難かもしれないことも未来ではどうか分からない挑戦していこうと思えました。

私は今回の樋口先生の講義の中で印象に残った言葉があってそれはスライドにも書いてくださっていた「時代に流されるだけではなく、時代をつくる一人として自覚を持って生きてください」という言葉です。過去の授業の感想にも書いたのですが私は人の意見に流されてしまうところがあります。でも今の時代は昔と違って自由に自分で選べる選択肢がたくさんあり、それは幸せなことです。私は自分で選んで服飾について学びたいと思い、この大学を選びました。何気なく選んだ大学進学も実はとても幸せなことなのだという認識を持ってこれからも頑張っていきたいです。そして自分のたくさんの意見を人に伝えて、これからの時代に貢献していきたいです。

女性とか男性とかで人を決めるのではなく、その人自身を見て、評価される社会になれば、もっと女性も男性も暮らしやすい環境ができるのではないかと考えました。

正岡律の生き方がとてもかっこいいと思えました。時代の問題によって生まれた自分の中のコンプレックスに屈することなく学び続ける姿勢がとても素敵だと思ったし、問題があっても自分の意識次第で可能性を伸ばし続ける事が出来るのだと気づきました。スライドの最後に歴史の中のどこで産まれるかは自分で選ぶことはできないとあり、その通りだと思ったし、だからこそその時代に産まれた意味を探して挑戦し続けていく事が大事だと気づく事が出来ました。

正岡家は学問に関心がある家系なのにも関わらず誰も律に学問の機会を与えないということは、当時の女性たちにとって学ぶことは非日常であったことがよくわかりました。学べないということは働いて自立するライフコースを選べないことに繋がります。現在は多種多様なライフコースが認められているのに、当時は結婚という選択肢しかなかったことを思うと自分の人生を自分で決めることができやりたいことをできることは幸せなことであることが分かりました。

感想

正岡子規が文学に律の悪口を書いていたという話を聞いて家族内でも男尊女卑や女性はサポート役という考えがあったことに気付かされました。正岡子規に悪口を言われながら介護をしていたので、介護をしていた7年間は無駄だったと最初は思っていました。しかしその間に大学進学への準備(情報収集や新聞を読むこと)を粛々と行なっていてそこを尊敬したいと思いました。嫌なことを行なっている時でも何かそこに得られるものを見出し、黙々と行えばそれも自分にとっての糧になるのだと思いました。

講演の途中まで、正岡子規の意外な側面が衝撃的で怒りが湧いてきましたが、子規が亡くなった後の律の華々しい飛躍は彼女の強さが窺えるものでした。若い時代を子規の介護に捧げることとなり、またそれまでの人生も彼女が望むようなものではなかったでしょうが、律は同情はされたくなかったと思います。将来を悲観せず、また誰のせいにもせず、世の中の動きを察知して自分の人生を自分の力で切り開こうとするその諦めない精神に感銘を受けました。

まず今の社会があるのは昔の人が作り上げてきたものがあるからなんだなと思ったのと同時にこんなに時間が経ってもまだ女性は家で主婦をしなさいという文化が抜けていないんだなと思ひ悲しくなりました。しかし正岡律や共立女子職業学校を立ち上げた人達により現在の女性教育の形が確立したと思うと凄く感謝を感じます。そして行動を起こすことであり得ないと思われていた女性教育の形が変わるといふ挑戦を起こす勇気を学びました。

昔の女性の話を聞く機会はなかなかありませんが、カッコいい女性が多いなと思ってしまいます。限られた立場の中、自分で生きてく方法を見つけ、積極的に学ぶ、私達は恵まれた環境に居るのに勿体ないことをしているなと思ってしまいました。環境が整っている学生のうちに、学びたいことを学べる力もつけたいと思います。

もし、自分が律の立場だったら律のように自分の人生をあきらめずに生きることができなかつたらうなと感じました。

自分も勉強がしくて大学に進学しましたが、みんなが大学に進学するという時代の流れの恩恵にあずかっている部分が多いと思います。

時代に流されずに生きることがどれだけ難しいか、ましてや明治の時代で、想像しただけで頭が痛くなりますが、自分の人生を切り拓いてきた女性たちのおかげで今こうして当然のように大学まで進学し学ぶことが出来ているのだと改めて感じました。

私は、正岡律の人生を学んで、正岡律のように教科書には載らないが日本の発展に人生を捧げた女性は数多く居るのだと思った。そして、このような日本の時代を動かした女性は世の中の流れをしつかりとみて、自分が今出来ることを着実に進めていたのだと思う。

私が生きている現代は正岡律の生きていた時代より遙かに女性として生きやすい環境になっていると感じている。しかし、私は何かと「自分には出来ない。」と諦めてしまっていたことが多かった。生きやすい時代に生きているのにもかかわらず自分の出来ることに見切りをつけて諦めてしまっていたと思う。自分には出来ない諦めるのではなくて自分が出来ることを見極めて挑戦することが大切なのだと思った。世の中の流れを知って大きなことでなくても自分に出来ることを見つけて挑戦していくことがこれからの人生を豊かにすることに繋がるのだと思った。

女性教育を推進してこなかった側の民間人が、女子の教育不足を嘆く(正岡子規が律への不満を記していたことから)部分は、自分勝手というか女性を同じ立場の人間として見ていたのかも危ういと感じた。

政府が女子教育の推進に否定的であったわけではなく、民間人が保守的であったことに驚いた。その部分に対して女性は当たり前ととらえ、自己犠牲をしがちであったのだらうと律さんの反応や経歴を聞いていて思った。日本人が謙遜しがちというか、自分を押し出していくことが苦手であることがこの部分からも感じられた。

正岡律の頃は女子の就学率が半分だったということですが、現代の私たちが男子との差がなく当たり前のように大学まで通っていることは凄いことは大変恵まれていることなんだと思いました。

そう考えると、女子への学習、教育の機会を設けるために立ち上がった第一人者たち(共立女子職業学校創立など)は、現代の私たちが感謝すべき大変大きな一歩を踏み出してくれたんだと思いました。

正岡子規が生存していた時代背景が男尊女卑が目に見えて女性の立場が低いということは知識として知っていた。また、正岡子規のことも国語の授業で習っていて作品も何度か読んでいて素敵だと思っていた。なのに自分を看病してくれている妹の悪口を書いていたと聞いて驚いた。講義を聞いていて先生のおっしゃっていたように律さんに同情して聞いていた。兄に罵倒されたことを怒るのではなく受け止めて、ばねにしてさらに学んでいく姿勢にとっても感動した。

正岡子規の存在は知っていましたが、つきっきりで看病してくれていた妹の存在は今回初めて知りました。また、明治時代頃は女性の地位がかなり低く、女性は家を守ったり男性のサポートにまわることが常識であり、それが想像以上にいろいろな場面で色濃く出ていたことがわかりました。しかし、そんな環境の中でも健気に兄の看病をし、自分の夢も諦めることなく挑戦し続けた正岡律の姿に感銘を受けました。自分の気持ちや努力次第で自分の立場や人生を変えていくことができるんだと改めて気づくことができました。

正岡子規の妹、律の人生のなかから垣間見える女性の進歩が今回の講義でくわしく学ぶことができた。樋口先生と同様に子規のエッセイを聞くと最初は律に同情の気持ちを抱いたが最後には感謝を述べられており、律が兄の死後色々なことに挑戦していく鍵になったのではないか。今だからこそ、男女かわらずに小学校、中学校、高校、大学や専門学校に進学が当たり前になっているが明治時代では国の制度として今よりも女性への対応が良くないことが大きな妨げになっていたことがわかる。しかし、現代でも「資格や技術はあって損をしない」というように技術があることで優遇され社会から必要とされるなど特に女性にとっては大事なものになってくると思う。

律の生き方を見て、自分にはないコンプレックスをバネにする努力やリサーチすることが今の自分に必要なことだ。また、先生が最後に言っていた良き友人をつくることは将来のことを相談し互いに助け合ううえで不可欠な存在だ。

前期の「スタートアップセミナー自主自律」と今回の講義において女性の歴史や学び、および本校の歴史について学んできましたが、学ぶ機会を得られた女性が奮闘してくださったからこそ私たち女性が今現在好きなことを学べているのだと思うと、自分たちがどれだけ恵まれている環境にいるかを改めて実感することが出来ました。

歴史の中でいつどこにどの性別で生まれるかは、いつの時代も選べない、からこそ自分がいま生きている社会でできることを見つけて活躍していくことが重要なのだと分かりました。正岡律さんは真摯に兄を看病し、その後も努力されて活躍し、律さんの生き方から学ぶことがたくさんありました。挑戦するという事は生きるうえで本当に大切なことだと知ることができました。

兄の看病をするために幸せを棒に振ったと思いきや、その後に自ら進んで勉学を学んでキャリアを手に入れた律さんはとても凄いなと思い、私も慢心せずにやりたいことや自分のために新しいことにチャレンジしていきたいと思いました。

未だ女性の差別がある世界で、私たちは自分の志を諦めず、少しのチャンスを活かして何かを成し遂げて行くことが大切だと思いました。女性であるからこそ女性だからしょうがないと引き下がるのではなく、女性だからこそ自分で人生を切り拓いていかなくは行けないのだと思いました。今回の授業で、正岡子規には妹がいてその方は女性の立場を大きく変えて行く源となったとても希望のある強い女性がいたということ学ぶことができました。

この時代に生きる一人としてしっかり自分の像を持って生きていきたいと思いました。

大抵のことが自分で自由に選べるような時代になったのは、今までやりたいことを自由にできなかったら人たちが声を上げて、歴史をつくってくれたからなのではないかと考えました。

感想

講義を通して、今は困難であることも、未来はどうなっているか分からないのだから、諦めずに何事にも挑戦していこうと思いました。また、友人を大事にしていきたいと思いました。

正岡律さんの生き方、向上心の強さ、やさしさ、すごかったよかったです。

講義や年表資料などを見て、女性たちがどんな時代を生きてきたか見えた気がしました。また、時代によって課題は違うと感じました。問題があるからと諦めるのではなく、正岡律のように挑戦し続けたいと思ったし、立ち向かっていきたいと思いました。

今まで知ることがなかった正岡子規の妹、正岡律の人生、どういった人物なのかを非常にわかりやすく知ることができました。同時に正岡子規へのイメージも変わりました。

しかし、当時の男女の教育格差、今に至るまでの教育の実態をより深く知ることができ、私は何不自由なく教育を受けることができているのですが、教育を受けることは決して当たり前ではないということを念頭におきながら今後も積極的に学習を行っていきたくと改めて思いました。

樋口恵子先生

この度はお忙しい中ご講演していただき有難うございました。

先生のご講演を聴講して、自分の人生は自分で切り開くものだという、当たり前のことですが忘れてしまいがちな大切なことを改めて実感することが出来ました。不平等さに不満を抱くより、どうすれば出来るのか、と思考転換する強さを身に付けたいです。

この度は有難うございました。

昔に比べたら男女間の教育の格差は少なくなったと思うけど、医大の女子の合格者が少ないなどまだ問題はあると思います。性別や家は関係なく自分の学びたいことを学ぶことができるような世の中になるということは長年の課題だと思いました。

日本の識字率は高く、男女ともに文字が読めるという事は普通である現代ですが、昔はそうではなく、女子に識字は求められていなかったと思うと、今の私たちは恵まれているなと思いました。以前、東京医科大学の入試で、

女子の受験生の入試得点を操作する不正に対して、ネットでは納得という意見が多かった事がさらに話題になったりして、女性の扱いはなかなか良くならないものだと思っていました。しかし、昔と比べたらこれでもまだ全然マシだよな、ともし、自分は今時代の変遷の渦中にいるんだなと思いました。

明治維新で女性の境遇が変わったのは”唯一”教育とのものでしたが、人間にとって非常に大切な子どもの時期の教育が女性にも認められたことは、本当に大きなことだったのではないかと思います。

その後も女性の教育の必要性を認められていったことで現在があるのだと思うと、当時の女性の活躍が本当にありがたいことだと感じました。

明治時代は、女子が男性と同じ権利を持っていない、それが当たり前とされていたことが分かりました。今このように男女共に平等に学ぶことが出来ているのは、昔の女性たちの努力や挑戦のおかげであり、感謝しなければならぬと思いました。

1人の女性として取り上げられていた正岡律は、看病をしていた兄でさえも酷いことを言われていたのにもかかわらず、自分のやりたい道に進んでいったので凄く思いました。時代や境遇を理由に諦めなかった所が見習いたいと思いました。

「課題があるという事は可能性がある事」という言葉が素敵だなと思いました。女性の社会進出はまだまだ完璧ではないところもあります。しかし昔よりは良くなっているのを見ると、時間をかけて改善されていくものなんだと分かります。最後のスライドにもありましたが、どの時代に生まれるかは運なので、誰しも時代のせいではない事もあると思います。なぜならこのような大きな事はすぐには変えられないからです。しかしその中で、自分にできる範囲で、時代を作る一人として、自覚を持ちながらやりたい事をやっていけたら素敵だ人生だと思いました。

恵まれていないなどという状況を言い訳にして何か行動することを諦めるのではなく、今の状況で自分に出来ることを最大限努力することが大切なのだと感じました。また、時代がどうであっても自分の行動や考え次第で、生き方が本当に変化するのだと改めて思いました。

昔は、今よりも男尊女卑の考えが根強く、律さんが挑戦したことは、当時にとっては女としてありえないと言われることがあったと思います。しかし、夢を叶えるために挑戦し続けた律さんは当時としては画期的な人物だと感じました。私も、歴史をつくる一人として、自分にしかできない生き方をしようと思いました。

時代や制度が自分の学歴や、やりたいことを制限されることに対して仕方がないといって諦めるのではなく、その状況で自ら調べてできることから行動に移し、挑戦することの大切さを改めて学びました。選択肢の多い現在、1つのことにとらわれるのはもったいないことだし、失敗しても違う方法でチャレンジしたり他のことに挑戦したりして様々な角度から物事を見ることのできる人になりたいと思いました。

正岡子規は知っていたけれど、その妹である正岡律は初めて知りました。女性が教育を受けれるように貢献した1人でもあり、挑戦し続けた女性であり、知ることができて良かったです。お話を聞いて、教育を受けることで、勉強以外にも友人などの大切なものに会えることができる今の環境は、当たり前なことではないのだと感じました。

編集後記

令和2年度東京家政大学 女性未来研究所報告書をお届けいたします。今年度から研究所プロジェクトは第3期目に入り、「女性の未来と希望の支援」と「人生100年時代の女性の人生」の2つをテーマに研究を行っております。しかし、コロナ禍により計画通りに進まないこともあったかと思えます。

一方、事務局の方は、今年度よりヒューマンライフ支援機構の組織の一部となり、事務スタッフも一新されました。

新型コロナ感染拡大や緊急事態宣言により、当研究所の主となる業務の共催事業や緑窓会との協働が中止となる所が多くありました。それでも新たな活路として、3者共催事業「子育てママの未来計画」や樋口恵子名誉所長が共通科目の授業で行った講演を、オンラインにて開催し、それらは来年にも繋がるものとなりました。

前年度に樋口恵子名誉所長の研究プロジェクトで作成しました『女性の150年年表』は、港区「第4次男女平等共同参画行動計画」に資料提供され、これから多くの場面で活用されることでしょう。

また、当研究所のホームページも一新しました。制作に関わっていただいたクラップス株式会社様には制作期間約3カ月というハードスケジュールの中、ご尽力いただきました。とても素敵なサイトが出来上がり、学内外への研究活動周知に期待がもてそうです。

報告書の執筆期間は、4月12日に原稿依頼、5月14日に原稿メ切、5月28日に入稿と、大学の前期授業が始まり多忙を極めているところ、みなさまのご協力のもと無事に報告書が出来上がりました。

最後に、本書の作成にご協力いただきました上毛印刷株式会社加藤様、表紙デザイン協力をいただいたヒューマンライフ支援センター様、そして執筆者のみなさまに心より感謝申し上げます。

東京家政大学
女性未来研究所 事務局

令和2年度 東京家政大学 女性未来研究所 活動報告書

2021年3月31日 発行

発行 東京家政大学 女性未来研究所

企画・編集 東京家政大学 女性未来研究所

表紙協力 東京家政大学 ヒューマンライフ支援センター

印刷・製本 上毛印刷株式会社
